

国語 第2学年 そうぞうをふくらませて読もう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

登場人物が相手をどう受け止めているかを、行動や会話の前後から想像する。同じ言葉を聞いても人物によって受け取り方が違う点に気付き、その違いが伝わる音読を試す。単元の終わりに残すのは、会話と行動の音読メモ。言う人物の様子、聞く人物の様子、行動の根拠、選んだ読み方を記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)エ	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(2)イ	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

単元の目標

語のまとまりと響きに注意し、会話や行動のまとまりで音読できる。場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりと響きに注意し、会話や行動のまとまりで音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全12時間（読む12）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、人物と出来事の大体を確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3～4	○会話の前後に誰が何をしたかを整理する。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○言った人物と聞いた人物の受け止め方を行動から考える。	学習状況を見て支援する。
	7 （本 時）	○受け止め方の違いが表れるように音読を試し、理由を説明する。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○別の場面でも行動と会話を関係付け、読み方を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	10～ 11	○音読を紹介し、友達が想像した様子と比べる。	学習状況を見て支援する。
第3次	12	○行動を確かめて音読したことで気付いたことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」 【めあて】登場人物が相手をどう受け止めているかを、行動や会話の前後から想像する。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも、言う側と聞く側の様子が異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも、言う側と聞く側の様子が異なる。 ・次にした行動から、どう受け取ったかを考えられる。 ・相手の様子を見て読み方を変えたい。	言う人物と聞く人物の行動を別の欄に記す。会話の前後の行動を確認してから音読を試す。読み方が違う場合はどの行動を根拠にしたかを話す。 想定する難しさ：言葉の意味を全人物が同じ意味に受け取っていると思う。声の演技だけが目的になる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・相手の様子を見て読み方を変えたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

難しさとして、言葉の意味を全人物が同じ意味に受け取っていると思う。声の演技だけが目的になる。この場合は、言う人物と聞く人物の行動を別の欄に記す。会話の前後の行動を確かめてから音読を試す。読み方が違う場合はどの行動を根拠にしたかを話す。おおむね満足できる状況は、場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ
会話と行動の音読メモ。言う人物の様子、聞く人物の様子、行動の根拠、選んだ読み方を記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録
交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_2_202401.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) LINEオープンチャット
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo みえ先生ラボ

